



総研大ニューズレター

第114号 2018.1発行



目次

【今月のトピックス】 p1-

総研大文化フォーラムを開催(12/2~3) 日本歴史研究専攻・院生・芳野貴典

I-URIC/4 機構連携男女共同参画シンポジウム参加報告(11/29) 学融合推進センター・助教・小松睦美

I-URIC フロンティアコロキウム参加報告(12/12 -13) 学融合推進センター・助教・小松睦美、
先端科学研究科・准教授・田辺秀之

平成29年度国際連携推進事業報告
「J-PARC アジアサマースチューデントプログラム」 高エネ研 大学院教育係

平成29年度永年勤続者表彰式を挙行(11/22) 総務課人事係

学融合レクチャー開催報告 p6
プロジェクトマネジメント概論(11/13~15) 核融合科学専攻・教授・榊原悟

【受賞、プレスリリース、メディア出演情報】 p6-

受賞5件、メディア出演情報2件、プレスリリース情報1件

【イベント情報】 p8-

1月~2月17日 総研大・基盤機関イベント情報

【広報社会連携室から】 p13

『総研大ピープル』 ページ開設について

『卒業生の就職先・受験生へのメッセージページ』 ページ開設について

『総研大公式 Facebook』  の開設について

【今月のトピックス】



● 総研大文化フォーラムを開催

12月2、3日の2日間にわたって、国立歴史民俗博物館（歴博）を会場に「総研大文化フォーラム」が開催されました。「総研大文化フォーラム」は、長らく文化科学研究科において開催されていた「学術交流フォーラム」が昨年度より全学事業として再出発したものです。通常の大学と異なり、全員必修の全学教育に相当する授業がなく、またキャンパスに当たる基盤機関が全国各地に分散している総研大において、院生が研究科・専攻の垣根を超えて顔を合わせる機会の一つとして文化フォーラムの開催は大きい意義をもっています



シンポジウムの様子

こうした文化フォーラムの性格を意識しつつ、今年のテーマ「文化を〈はかる〉—文化科学へのまなざし—」は、〈はかる〉（測る、図る、諮る etc.）をキーワードに、「文化」という言葉で包括し得る対象と文化科学の学徒はどのように向き合うのかを、この機会にあらためて見つめてみようとの思いを込めたものです。特に今年は、山下則子文化科学研究科長の「純学術的な場としてのフォーラムを」という提言を受けて、学生企画委員としても参加学生の研究の進展に資する機会となることを目指してプログラムを構成しました。

文化フォーラムの冒頭を飾るプログラムは、

例年、その年のテーマを具現化するものです。今年も、会場である国立歴史民俗博物館（歴博）発の新しい学問領域として注目を集める「総合資料学」について、「文化と知を『はかり』『つなげる』—総合資料学という試み—」とのタイトルでシンポジウムがおこなわれました。前半は歴博の後藤真准教授、龍谷大学の曾我麻佐子准教授から総合資料学の意義と現状に関する講演があり、後半では歴博の橋本雄太助教も加わって、オンラインチャットを活用しながら参加者と登壇者との間でディスカッションが行われました。印象的だったのは、参加者それぞれが自らの研究分野で総合資料学の視座や方法が応用可能かどうかを意識しつつ議論に加わっている様子が看取できたことです。本シンポジウムを通じて、文化科学の新たな地平をどのように切り拓いていったらよいかについて、各人が様々な示唆を得ることができたのではないのでしょうか。

つづいて、別室にてポスター発表が行われました。貼り出されたポスターの前で少人数の観衆を相手に発表するスタイルは、文系ではなじみが薄いこともあり、文化フォーラムならではの光景となっています。自分の研究をいかに分かりやすく伝えるか、発表者はポスターの視覚効果なども工夫しながら研究発表の要点というべきこの点を追求します。今年も初めての試みとして「ポスター賞」を設け、参加者に最も優れていると思う発表を選んでいただきました。その結果、国際日本研究専攻・君島 彩子さんの「近代的観音像の成立と展開」が選ばれました。



歴博ツアーの様子

2日目は、午前中に4名の口頭発表が行われました。文化フォーラムの口頭発表はポスター発表同様、分かりやすく伝えることが第一義的な課題です。今年も発表者は、映像・画像資料を用いたり、前提となる説明を丁寧に行ったりといった工夫が顕著であり、その甲斐もあって質疑応答の時間には異なる分野の研究者との間で積極的に議論がなされていました。

午後には、プログラムの最後となる「歴博ツアー」を実施しました。博物館という会場の特性を活かし、バックヤードと企画展を参加者に見学してもらいました。バックヤードは普段目にするのできない場所ですが、博物館を語るうえでは表の世界である展示室以上に重要と言っても過言ではありません。実物資料や分析機器を目の前にした参加者は文字通り興味津々の様子でした。そして、ちょうど開催中であった企画展「『1968年』—無数の問の噴出の時代—」を、展示を企画された歴博の荒川章二教授の案内により見学しました。

当初は、都心から離れた会場での開催ということもあり、例年通りの参加者数を確保できるか懸念されましたが、蓋を開けてみれば学内外から78名が参加し、全プログラムを無事に終えることができました。関係各位に改めて感謝申し上げます。【日本歴史研究専攻・院生・芳野貴典】

● URIC/4 機構連携男女共同参画シンポジウム参加報告



パネルディスカッションの様子

11月29日（水）に、I-URIC/4 機構連携男女共同参画シンポジウムが人間文化研究機構国立国語研究所にて開催されました。本シンポジウムは、大学共同利用機関法人4機構合同としての初の開催とのことで、本学は共催として参画し、学生1名と学融合推進センターより教員3名が聴講参加しました。

開始にあたり、自然科学研究機構の小森彰夫機構長より開催挨拶がありました。講演は、3部構成と

なっており、第1部は「Gender Summit 10 (GS10)の報告 問題提起」と、2つの講演がありました。第2部は、「男女共同参画の視点での研究環境の在り方について ～GS10 WG4 によるダイバーシティ推進に係る評価指標の提示～」をテーマとして、2つの講演とパネルディスカッションが行われました。第3部では、「研究環境に向けた4機構の研究現場の声」として、参加者を交えた意見交換が行われました。

会場には子育て中の研究者も多く参加しており、各機構で効果的な取組が行われる一方で、男女区別無く研究を進めやすい環境整備に関する継続的な取組が必要であるという意見が出されました。本学は、女性の学長（国立大学では3名のみ）をトップとし、葉山本部では女性教職員の

割合も高く、男女共同参画の環境としては進んだ組織であると思います。今後、本学での男女共同参画について検討を進め、学生・学外に積極的にアピールする機会を持てればと思います。

I-URIC 男女共同参画プログラム

開会挨拶 小森彰夫（自然科学研究機構長）

【第1部】

講演1 渡辺美代子（科学技術振興機構副理事/人財部ダイバーシティ推進室長）

「日本にふさわしい男女共同参画を求めて」

講演2 アラニヤ・ルディービーヌ（エルゼビア・ジャパン株式会社 シニア・マネージャー）

「世界の研究環境におけるジェンダー」

【第2部】

講演3 大坪久子（日本大学上席研究員）

「ダイバーシティ推進に向けた日本の課題抽出と提言、支援事業への反映～数値目標から新指標の開発へ～」

講演4 藤井良一（情報・システム機構長）

「ジェンダーサミット10分科会4『ダイバーシティ推進に係る評価手法の提示』の概要とアクション提案」

話題提供1 中村淑子（情報・システム研究機構コーディネーター）

「英国のダイバーシティ推進と情報・システム研究機構における男女共同参画」

話題提供2 野尻美保子（素粒子原子核研究所 教授）

「物理における男女共同参画：国内と国外の現状と今後」

話題提供3 小長谷有紀（人間文化研究機構理事）

「人間文化研究機構の特徴と更なる課題」

話題提供4 渡部潤一（国立天文台 副台長/男女共同参画推進委員会委員長）

「自然科学研究機構国立天文台における男女共同参画推進の取組み」

【第3部】

討論「研究環境改善に向けた4機構の研究現場の声、意見交換」

【学融合推進センター・助教・小松睦美】

● URIC フロンティアコロキウム参加報告

12月12日-13日に、4機構（人間文化研究機構、自然科学研究機構、高エネルギー加速器研究機構、情報・システム研究機構）連携事業であるI-URIC フロンティアコロキウム2017に参加しました。本コロキウムは、大学共同利用機関法人4機構共同の異分野融合・新分野創成の取り組みとして、自然科学研究機構におけるNINS-Colloquiumの成果を継承・発展させ、2016年度に創設されたものです。今年度は、昨年度の議論を継続して「よそもの学」「知識と知能の境界」「性差とは何か？」の3つのテーマが設定され、静岡県掛川市のつま恋リゾート彩の郷で開催されました。

1日目は「人工知能」に関する2つの基調講演「人工知能の歴史、現状、将来（独立行政法人理化学研究所脳科学センター特別顧問 甘利俊一氏）」と「言語のデカルト的使用について：言語の基盤と使用（東京大学大学院教育学研究科 影浦 峡 教授）」が行われました。その後、参加者総勢約70名が3つの分科会に分かれ、各分科会テーマに沿った討論会が2日目の午後まで行われました。1日目の夜には、夕食会、ポスターセッションがあり、若手研究者を中心にそれぞれの研究発表も行われました。

本学からは分科会2と分科会3に参加しましたので、報告します。

- ・分科会1「よそもの学」－living in harmony with nature
- ・分科会2「知識と知能の境界」－知識を超える知能、知能を支える知識



基調講演の様子



ポスター発表の様子

分科会 2 では、総勢 26 名の参加者があり、以下の話題提供者の講演を中心に、活発な討論が行われました。

話題提供 1：甘利俊一（独立行政法人 理化学研究所脳科学総合研究センター特別顧問）

「深層回路網の統計神経力学」

話題提供 2：豊泉太郎（理化学研究所 脳科学総合研究センター神経適応理論研究チーム チームリーダー）「生物学的妥当な学習法則によって主成分分析と独立成分分析を実装する」

話題提供 3：山岸順一（情報・システム研究機構 国立情報学研究所 准教授）「ディープラーニングによる音声合成の進展」

話題提供 4：佐藤真一（情報・システム研究機構 国立情報学研究所 教授）「画像認識の歴史と深層学習」

話題提供 5：後藤真（人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 准教授）「人文情報学の『次』を模索する」

話題提供 6：賀沢秀人氏（グーグル合同会社 シニアエンジニアリングマネージャー）「人工知能と知性の

ミスマッチ」

話題提供 7：景浦 峯（東京大学大学院 教育学研究科 教授）

「説明すること、翻訳すること、言語を参照すること」

AI の応用、音声、画像、言語、翻訳など、それぞれの開発の現状や応用への可能性に関して、時間一杯まで議論が行われました。

・分科会 3 「性差とは何か？」

分科会 3 では、昨年度の性とジェンダー、およびそれらを取り巻く社会との関連に関わる研究がどのように行われ、現在、どこまで理解されているのかという議論をもとに、今年度はそもそも「性差とは何か？」をテーマとして議論を行いました。以下の話題提供を軸として、19 名の参加者により、遺伝子によって決定される性と、表現型としての性、社会が認識する性、そしてその違いは何なのか、について議論を深めました。

話題提供 1：佐久間康夫（東京医療学院大学 学長）「脳の性分化について」

話題提供 2：小川園子（筑波大学 人間系心理学領域 教授）「社会行動・ホルモン・脳の関係」

話題提供 3：近添淳一（自然科学研究機構 生理学研究所 准教授）「脳の性差研究の方法」

話題提供 4：成瀬清（自然科学研究機構 基礎生物学研究所 特任教授）

「メダカの性差と行動について」

話題提供 5：横山百合子（人間文化研究機構 国立歴史民俗博物館 教授）「歴史博物館における研究・展示とジェンダー」

話題提供 6：池田忍（千葉大学大学院人文科学研究科 教授）「アートとジェンダー」

分科会終了後は、全員が再度集合し、全体総括がありました。それぞれの分科会で幅広い議論がなされ、分野横断的研究の可能性が話し合われたとの報告がありました。今後も、このような機構連携事業と関連した本学の取り組みを効果的に進めていければと思います。

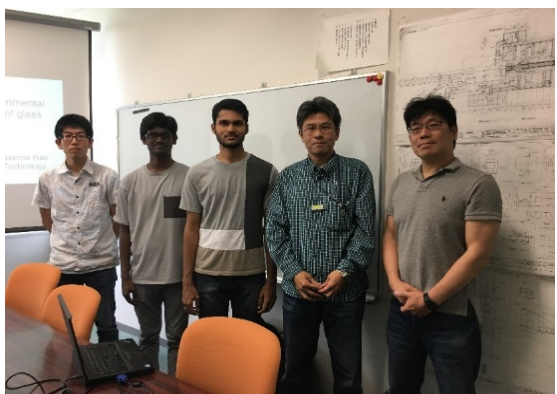
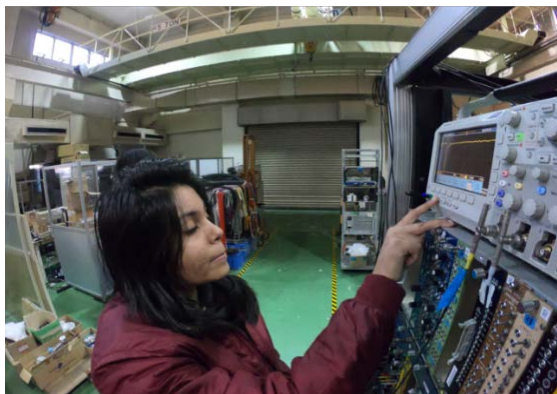
【学融合推進センター・助教・小松睦美、先導科学研究科・准教授・田辺秀之】

● 平成 29 年度国際連携推進事業報告

「J-PARC アジアサマースチューデントプログラム」

本プログラム（参考 URL：<http://kek.soken.ac.jp/sokendai/sitetop/jassp/>）は、高エネルギー加速器研究機構と日本原子力研究機構が共同運営する大強度陽子加速器研究施設 J-PARC にアジアから学部高学年から修士相当の学生を 1～3 ヶ月招聘し、総研大教員の指導の下、研究活動を体験してもら

うプログラムで、総研大国際連携推進事業（事業枠 II：海外学生研究者招聘事業）の支援により実施しています。



本プログラムで招聘された学生の
実習風景

2017年5月に採択決定後、速やかに総研大の紹介やプログラムの概要、募集要項をホームページにまとめて公募を開始し、アジア諸国(インド、中国、韓国、ベトナムなど)の研究者に、学生たちへの紹介を依頼しました。応募は全部で18名、滞在34人・月分(中国4名、韓国1名、インド13名)ありました。研究科の教員で構成される選考委員会による書類選考、面接を経て、最終的に8名(中国2名、韓国1名、インド5名。学部生6名、修士課程相当が2名)、12.4人・月分の学生滞在を受け入れることにしました。

実習テーマは加速器制御から素粒子、原子核実験、物性研究などJ-PARCで展開される全分野に渡っています。テーマ、滞在期間、滞在時期はまちまちですが、すべての学生に対して、総研大を紹介するレクチャーを受けてもらうこと、滞在期間中の研究を報告にまとめること、ホストグループで報告会を開いてプレゼンテーションを行うことを、共通のフォーマットとしています。また期間中に、KEKやJ-PARCの最先端加速器施設の見学ツアーも企画しています。学生のレポート、スライド等は、本プログラムのホームページに随時掲載しています。

本原稿執筆時(12月25日)では、滞在終了が2名、滞在中が4名、今後2名が来訪予定です。まだ年度途中ではありますが、これまでの参加学生たちの様子をみると、好奇心と学習意欲が非常につよく、

また概して外向的で明るく、楽しく実習に取り組んでいるようにみえます。

本プログラムで期待される成果は、短期的には、学生の総研大進学、中長期的には、プログラム経験者が総研大、または外国の大学院等を経た後、自国に帰り、日本、総研大、KEK、J-PARCとの組織的連携のコアとして育つことなどです。また、本プログラムを通して、J-PARCの最先端加速器研究施設を用いた学部生・修士学生教育プログラムをより一層充実させるとともに、各国の各大学、研究機関と学術交流協定を締結して、より強固な交流を継続できる足場を固めていくことを目指しています。今年度は最初の試みであり、成果は今後現れてくると期待しますが、最初の成果として、このプログラムで滞在中の学生のうち2名が、来年度総研大進学を希望してくれています。次年度以降もプログラムを改善しつつ継続し、総研大で研究をすることの魅力を伝えつつ、将来の国際連携の核となる人材を育てる一助となればと考えています。【高エネ研大学院教育係】

● 平成29年度永年勤続者表彰式を挙

11月22日(水)、葉山キャンパスの学長室において永年勤続者表彰式を挙りました。これは、「職員の永年勤続者表彰に関する規則」に基づき、永年誠実に勤務し、その成績が優秀で他の模範となる教職員を表彰するもので、平成29年度は勤続20周年を迎えた2名が表彰されました。

式では、長谷川学長から一人一人に表彰状と記念品が授与され、これまでの尽力に対する感謝の意が述べられました。引き続き、記念写真の撮影が行われ、和やかなうちに終了しました。【総務課人事係】



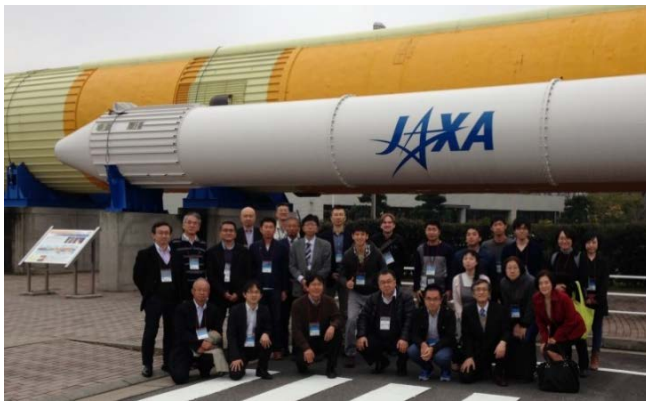
永年勤続者を囲んでの記念写真

学融合レクチャー 開催報告

● プロジェクトマネジメント概論

11月13日～15日、筑波宇宙センターにおいて元 JAXA 国際宇宙ステーションマネジャーの長谷川義幸氏を講師に招き、「プロジェクトマネジメント概論」を開講しました。本講座はプロジェクトマネジメント学会と共催し、参加者は総研大生の他、他大学の大学院生、企業など、合計21名が参加しました。初日はプロジェクトマネジメントが必要となった経緯をいくつかの事例（大型客船や新幹線プロジェクト、アポロ1号の火災事故等）を用いて解説し、プロジェクトマネジメント学が体系化された経緯について講義があり、PMBOK (Project Management Body of Knowledge) 等の概念について学びました。二日目はプロジェクトマネジメントのツールとして世界標準であるフレームワークの説明と、そのフレームワークの中においても、特に大規模プロジェクトで重要となってくる統合管理、意思決定とリスクマネジメントの説明がありました。三日目は、「コロンビア事故」「きぼう」の事例を用いて危機管理の本質に関する解説があり、プロジェクトマネジメントの意思決定の仕組み、フェーズプロセス、コンセプトフェーズのほか、PMBOK の9要素であるスコープ、タイム、コスト、品質等の考え方について学びました。

本講義は、プロジェクトマネジメントの必要性、企画時の留意点、予算、スケジュールの立案方法等について事例に基づいた講義となっており、プロジェクトマネジメントの難しさと考え方について



参加者の集合写真（筑波宇宙センター）

知見を得る教育効果があったと考えています。参加者からは多くの質問があり、特に、大規模プロジェクトが「なぜ失敗したのか」、深く考察できる良い機会となりました。

本講義は、宇宙開発に関する国内外のプロジェクトの成果（成功例、失敗例）を通じてプロジェクトマネジメントの基礎、学問体系を幅広く学ぶことができる良い機会であったと考えています。一方、宇宙開発の他にも規模に関わらず多くのプロジェクトが存在することから、今後はさらに広い分野の事例について学べる講義にしたいと考えています。【核融合科学専攻・教授・榊原悟】

受賞・ プレスリリース

受賞情報

○遺伝学専攻・助教・浅川和秀

【受賞】第一回「せりか基金」賞

【受賞の概要】

全身の筋肉が徐々に動かなくなる難病 ALS（筋萎縮性側索硬化症）の克服に資するために設立された「せりか基金」が、革新的で今後発展が期待できる優れた研究に対して贈る「せりか基金」賞を受賞し、研究助成金を授与されました。

【関連 URL】 https://www.nig.ac.jp/nig/ja/2017/12/information_ja/20171218-3.html

○日本歴史研究専攻・准教授・高田貫太

【受賞】第5回 古代歴史文化賞 優秀作品賞

【受賞作品】海の向こうから見た倭国／講談社

【関連 URL】 <http://kodaibunkasho.jp/news/1615>

○学術資源研究開発センター人類基礎理論研究部・教授・寺田吉孝、准教授・福岡正太

【受賞】第7回国際民俗音楽映画祭 Best Short Film Award

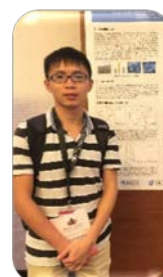
【受賞作品】Sbaek Tauch : The Small Shadow Puppet Theater of Cambodia

○物質構造科学専攻・学生・TAN ZHIJIAN

【受賞】International Atom Indonesia best paper awards 2017 (first winner)

【受賞者のコメント】The prize belongs to our group. Thanks for my supervisor Kamiyama-sensei and our group members. Thank you very much for the support from Sokendai office.

【関連 URL】 <http://aij.batan.go.id/public/aibpa/#result>



受賞者：
TAN ZHIJIAN 氏

○情報学専攻・学生・Xin WANG

【受賞】第11回 IEEE SPS Japan Student Best Paper Award (Conference 部門)

【受賞者のコメント】It is my honor to receive the student paper award, which shall be shared with my supervisor Dr. Junichi Yamagishi.

Readers who catch a first glimpse of the paper title may grumble that another deep learning method outperformed previous approaches using uninterpretable magic. On the contrary, this paper just shows how a shallow linear explainable trick can make a huge impact on non-linear models. This paper taught me a lesson on how the simple axioms and theories I learned from the book can be used to solve tough problems. It also persuaded me of the old saying: research is fun.

【関連 URL】 <http://www.nii.ac.jp/news/award/2017/1114.html>

メディア等出演情報

○学融合推進センター・助教・塚原直樹

日本経済新聞 電子版に掲載「宇都宮にカラス対策のVB、コンサルや駆除製品」

関連 URL : <https://www.nikkei.com/article/DGXMZ024778040Y7A211C1L60000/>

○日本歴史研究専攻・教授・藤尾慎一郎

所さんの目がテン! 「弥生時代の生活に挑戦 (12/10)」 弥生時代の衣食住監修を担当。

関連 URL : <http://www.ntv.co.jp/megaten/>

プレスリリース情報

○“八王子隕石”とされる隕石を初めて詳細に分析

共同プレスリリース：大学共同利用機関法人情報・システム研究機構 国立極地研究所、独立行政法人国立科学博物館、国立大学法人九州大学、大学共同利用機関法人人間文化研究機構 国文学研究資料館、国立大学法人総合研究大学院大学

【プレスリリース概要】

八王子隕石とされる隕石の小片(約0.1g)を初めて詳細に分析した。小片は1950年代に古典籍の中から見つかったもので、状況から八王子隕石と考えられているが、曾根隕石である可能性も否定できなかった。分析により曾根隕石との違いが見つかった場合には、この小片が八王子隕石である可能性が高まるとされていた。分析の結果、小片は「H5 普通コンドライト」という種類の隕石であることが分かった。また、曾根隕石との違いは見いだされなかった。

URL : <https://www.soken.ac.jp/news/41059/>

イベント情報

○生命共生体進化学専攻オープンキャンパス

【日 時】平成 30 年 1 月 12 日（金）

【概 要】生命共生体進化学専攻ではオープンキャンパスを開催いたします。進化学、科学と社会を学びたい学部生・大学院生の参加を歓迎します。

※学部生・大学院生のご参加を歓迎いたします。交通費・宿泊支援可能です。

【URL】<https://www.soken.ac.jp/event/20180112op2/>

○学融合セミナー 「多様化する博士のキャリアと、それを支える取り組み」

【日 時】平成 30 年 1 月 17 日（水）15:00-17:00

【会 場】葉山キャンパス セミナー室 101

【講演者】学融合推進センター・准教授・浅岡凜

【概 要】自然科学系の分野において、「博士号を取る」といえば、一昔前までは、大学や研究機関において「研究者になる」と同義のように捉えられていました。しかし、博士課程進学者が増え、博士のキャリアが多様化している今、博士課程修了者一人ひとりが自分のキャリアパスの拓き方に関する意識を持つ必要性が高まっています。本セミナーでは、博士号取得者の多様なキャリアパスの例を示すとともに、発表者が関わっているキャリアパス選択に関する支援の取り組みについて紹介します。変則的なキャリアパスの一例として、植物学から高等教育へと活動領域をシフトさせた、発表者自身の研究歴・実務歴についても紹介する予定です。

【URL】<http://cpis.soken.ac.jp/project/exchange/hayamasemi/index.html>

○宇宙科学専攻 海外学生インターンシップ 2017

【日 時】平成 30 年 1 月 22 日（月）～2月 28 日（水）

【概 要】物理科学研究科宇宙科学専攻では、専攻への入学を志す海外学生のために、「宇宙科学専攻 海外学生インターンシップ 2017」を開催します。

インターン学生に採用されると、宇宙科学専攻（JAXA 宇宙科学研究所、神奈川県相模原市）に約 1 ヶ月間滞在し、入学後に配属を希望する研究室での研究活動を体験することができます。

【URL】<http://www.isas.jaxa.jp/sokendai/admissions/guidance/intern.html>

○平成 29 年度学融合推進センター公募型研究事業・公開研究報告会プログラム

【日 時】平成 30 年 2 月 8 日（木）13:00～19:00

【会 場】葉山キャンパス 学融合推進センター棟 1 階 福利厚生室

【概 要】公開研究報告会は、学融合研究事業の下で研究活動を実施している研究者が年に一度本学葉山キャンパスにある学融合推進センター棟に集い、採択された研究課題について一年間の活動報告を行う場です。研究課題の進捗状況を把握するという目的の他に、本学の多くの研究者と知り合う機会を提供することによって、それぞれの研究について広く意見を交換する場として活用していただくことを目指しています。

【URL】<http://cpis.soken.ac.jp/project/research/koukaihoukoku/index.html>

○遺伝研(総研大遺伝学専攻)体験入学 春休み定期コース

【日 時】平成 30 年 2 月 26 日（月）～3月 2 日（金）

【概 要】今年も総研大遺伝学専攻では、例年好評の体験入学プログラムの参加者を募集します。実際に遺伝研の研究室に所属し、研究を体験していただくプログラムです。

受入研究室と期日を相談して決める随時コースと春休みに 5 日間行う春休み定期コースがあります。学部 3 年生以上、高専専攻科生、修士課程大学院生であれば応募可。期間中は所内のゲストハウスに滞在し、実験だけでなく、討論、セミナー参加など遺伝研での研究生活を体験でき、キャリアを高めるための絶好の機会です。

【URL】<https://www.nig.ac.jp/nig/ja/phd-program/taiken#haru>

○基盤機関の行事等

1月

日時	時間帯	イベント名称・開催場所	参考 URL	実施基盤機関等
5日(金) ～2/4(日)	9:30- 16:30	特集展示「江戸のグルメ案内」 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/special/index.html	国立歴史民俗博物館
10日(水)	19:00- 20:30	連続講座「みんぱく×ナレッジキャピタル—フィールドワークを語る—」〈ソースコミュニティの人々との資料熟覧—博物館収蔵庫でのフィールドワーク〉 グランフロント大阪北館 1階 ナレッジキャピタル「カフェラボ」	http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/activity/knowledge/2017fieldwork	国立民族学博物館
11日(木) ～ 3/13(火)	10:00- 17:00(入館は16:30まで)	開館40周年記念企画展 アイヌ工芸品展「現れよ。森羅の生命(いのち)—木彫家 藤戸竹喜の世界」 国立民族学博物館 本館企画展示場	http://www.minpaku.ac.jp/museum/exhibition/thematic/aynu20180111/index	国立民族学博物館
11日(木)	14:00- 14:30	【企画展関連】アーティスト・トーク 国立民族学博物館 本館企画展示場	—	国立民族学博物館
12日(金)	13:45～	生命共生体進化学専攻オープンキャンパス	https://www.soken.ac.jp/event/20180112open2/	先端科学研究科
12日(金)	13:15-	4D2U 定例公開「微惑星の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
12日(金)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 〈観望天体:M42 オリオン大星雲〉 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/	国立天文台
13日(土)	13:00- 15:00	第406回歴博講演会「中世日本の国際交流—船舶・航海の視点から—」 国立歴史民俗博物館 講堂	—	国立民族学博物館
13日(土)	13:15-	4D2U 定例公開「微惑星の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
14日(日)	10:00- 16:00	VERA 小笠原観測局特別公開 国立天文台 VERA 小笠原観測局	http://www.miz.nao.ac.jp/content/news/event/20171214-334	国立天文台
14日(日)	14:30- 15:00	みんぱくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「トナカイの角」 国立民族学博物館 第3セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/496	国立民族学博物館

15日 (月)~ 5/26(土)	10:00- 16:30	通常展示「和書のさまざま」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/washosama201801-05.html	国文学研究資料館
15日 (月)~ 3/13(土)	10:00- 16:30	展示特設コーナー 「かるた 百花繚乱！」 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/washosama201801-05.html	国文学研究資料館
20日(土)	10:00 - 16:00	VERA 小笠原観測局 特別公開 国立天文台 VERA 小笠原観測局	http://www.miz.nao.ac.jp/content/news/event/20171214-334	国立天文台
20日(土)	13:15-	4D2U 定例公開「アストロノマー・トーク 『惑星の種は「ふわふわ」だった?』」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
20日(土)	13:30- 15:00 (13:00 開場)	【企画展関連】みんなくゼミナール「木彫り熊からアートモニュメントまで」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/seminar/476	国立民族学博物館
21日(日)	14:30- 15:00	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう「音楽を展示する試み」 国立民族学博物館 第7セミナー室(本館 2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/497	国立民族学博物館
24日(水)	19:00- 20:30	連続講座「みんなく×ナレッジキャピタル—フィールドワークを語る—」〈「世界の屋根」で言語を求める〉 グランフロント大阪北館1階 ナレッジキャピタル「カフェラボ」	http://www.minpaku.ac.jp/museum/showcase/activity/knowledge/2017fieldwork	国立民族学博物館
25日(木)	11:30- 12:15	展示ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/washosama201801-05.html	国文学研究資料館
27日(土)	13:00- 16:00	《手話言語学関連》楽しい言語学を学ぶ会(たのげん) 「言語学とは何か」 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館 2F)	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20180127-0225tanogen	国立民族学博物館
27日(土)	13:30- 15:30	第226回くらしの植物苑観察会「桜草の植え替え体験」国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/observation/index.html	国立歴史民俗博物館

27(土)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 〈観望天体:月〉 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/	国立天文台
28日(日)	13:00- 16:00	《手話言語学関連》楽しい言語学を学ぶ会(たのげん) 「音のつくり(音声・音韻)」 国立民族学博物館 第5セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20180127-0225tanogen	国立民族学博物館
28日(日)	14:30- 15:30	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「フィールドワークの醍醐味—雲南省大理での30年を通して」 国立民族学博物館 第3セミナー室(本館2F)、本館展示場(東アジア展示場・中国地域の文化展示場)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/498	国立民族学博物館
開催中 ~ 1/30(火)	10:00- 17:00	年末年始展示イベント「いぬ」 国立民族学博物館 ナビひろば(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/event/2018inu	国立民族学博物館
30日(火)~ 31日(水)		古典籍文理融合シンポジウム(第2回) 古典籍文理融合研究会 国立極地研究所・国文学研究資料館 2階大会議室	https://aurora4d.jp/workshop/614/	国立極地研究所 国文学研究資料館 総研大学融合推進センター
開催中 ~ 1/28(日)	9:30- 16:30	くらしの植物苑特別企画 「冬の華・サザンカ」 国立歴史民俗博物館 くらしの植物苑	http://www.rekihaku.ac.jp/exhibitions/plant/project/next.html	国立歴史民俗博物館

2月

日時	時間帯	イベント名称・開催場所	参考 URL	実施基盤機関等
3日(土)	13:00- 16:00	《手話言語学関連》楽しい言語学を学ぶ会(たのげん) 「語のつくり(形態)」 国立民族学博物館 第7セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20180127-0225tanogen	国立民族学博物館
3日(土)	13:15-	4D2U 定例公開「地球型惑星の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
4日(日)	13:00- 16:00	《手話言語学関連》楽しい言語学を学ぶ会(たのげん)「文のつくり(統語)」 国立民族学博物館 第7セミナー室(本館2F)	http://www.minpaku.ac.jp/research/activity/news/rm/20180127-0225tanogen	国立民族学博物館

4日(日)	14:30- 15:15	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「優しいチョコレートとはなにか?—倫理的な消費入門」 国立民族学博物館 ナビひろば(本館 2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/499	国立民族学博物館
9日(金)	13:15-	4D2U 定例公開「地球型惑星の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
9日(金)	18:30-	国立天文台三鷹 定例観望会 〈観望天体: M42 オリオン大星雲〉 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/stargazing/	国立天文台
10日(土)	13:15-	4D2U 定例公開「地球型惑星の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
10日(土)	13:30- 15:30	第32回歴博映画の会「山村集落における伝統的な植物利用」 国立歴史民俗博物館	http://www.rekihaku.ac.jp/events/movie/index.html	国立歴史民俗博物館
10日(土)	13:30- 16:30	みんなく映画会 みんなくワールドシネマ 映像から考える〈人類の未来〉「テレビジョン」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/f/s/movies1802	国立民族学博物館
11日(日)	13:00- 16:00	みんなく映画会・公開セミナー 「渡り鳥と人とのかわり」(仮) 国立民族学博物館 講堂		国立民族学博物館
11日(日)	14:30- 15:15	みんなくウィークエンド・サロン—研究者と話そう 「神教と多神教—宗教学からみた世界の宗教」 国立民族学博物館 ナビひろば(本館 2F)	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/salon/500	国立民族学博物館
13日(火)	14:00- 16:00	第318回日文研フォーラム ハートピア京都3階大会議室		国際日本文化研究センター
15日(木)	11:30- 12:15	展示ギャラリートーク 国文学研究資料館 展示室	http://www.nijl.ac.jp/pages/event/exhibition/2017/washosama201801-05.html	国文学研究資料館
17日(土)	13:15-	4D2U 定例公開「地球型惑星の形成」 国立天文台三鷹キャンパス	https://prc.nao.ac.jp/4d2u/	国立天文台
17日(土)	13:30- 15:00	みんなくゼミナール 「ヒュードロドロの系譜—この世ならざるものの出現にともなう音」 国立民族学博物館 講堂	http://www.minpaku.ac.jp/museum/event/s/eminar/477	国立民族学博物館

2月中旬以降の情報は2月号に掲載します。



【広報社会連携室から】



○『総研大ピープル』ページ開設について

ノーベル賞受賞者を含む本学の教授陣および在学学生・修了生、学术界で活躍する総研大ピープルをご紹介します。URL：<https://www.soken.ac.jp/outline/people/>

○『卒業生の就職先・受験生へのメッセージページ』ページ開設について

総研大生の活躍をまとめたページを本学ウェブページに開設しましたのでご覧ください。
https://www.soken.ac.jp/admission/student_activity/activity/



○総研大公式 Facebook ページの開設について

この度、広報社会連携室では「[総研大公式 Facebook](https://www.facebook.com/SOKENDAI/)」を開設しました。
情報発信ツールとして、総研大、専攻を設置する各基盤機関等の大学院説明会等のイベント、最新情報についてお知らせしますので、フォローと「いいね！」をお願いします。
[総合研究大学院大学公式 Facebook ページ]
<https://www.facebook.com/SOKENDAI/>



「フォロー」と「いいね！」をお願いします。

○総研大は、2018 年に創立 30 周年を迎えます。

10月1日の創立記念日を中心に、式典の開催、講演会・シンポジウム、寄付口座の開設及び同窓生ネットワークの構築などを考えています。これらにつきご意見のある方、また、これら以外のアイデアのある方は、30周年事業担当の田村学長補佐 (katsumi_tamura@soken.ac.jp)、あるいは、[広報社会連携室 \(kouhou1@ml.soken.ac.jp\)](mailto:kouhou1@ml.soken.ac.jp) まで、ご意見をお寄せください。

○神奈川新聞コラムページをリニューアルしました。

神奈川新聞掲載コラムページをリニューアルしました!このページでは、2016年6月から2017年5月まで全24回にわたり神奈川新聞で連載した「総研大発 最先端の現場」のコラム記事を掲載しております。なお、掲載時から一部加筆・修正(写真の差替え)しておりますことをご承知おきください。

新聞コラム：<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/column/>

○広報特派員の募集について

広報社会連携室では、広報特派員を募集しております。総研大の広報活動にご協力いただける学生の方はぜひ応募してください。

詳細は、下記URLをご参照ください。

<http://www.soken.ac.jp/disclosure/pr/information/corres>

編集後記

- ・2018年もどうぞよろしくお願いいたします。みなさまと総研大にとって素晴らしい一年となりますように。
- ・昼休み、葉山キャンパスの中庭でふわふわタヌキが熱心に鼻の頭で地面をつついていました。
- ・公式 Facebook のフォロワーが開設から3ヶ月で70人になりました。3桁目指しています。(広報社会連携室 SS)



昼休みの
ふわふわタヌキ

広報社会連携室では、メディアを通じて総研大の研究成果を広く社会に発信しています。特に、総研大在学学生が筆頭著者として研究論文を出版する際、プレスリリースを行う場合は、総研大と所属専攻(基盤機関)との共同プレスリリースを行っておりますので、是非総研大広報社会連携室までご連絡ください。

各専攻の学生・担当教員の「メディア出演」、「受賞・表彰」および「地域社会と連携・密着したアウトリーチ活動等の社会連携・貢献活動」についてニューズレター、ウェブ掲載等により発信しておりますので、各種情報を是非お寄せください。

研究論文を投稿する場合や、メディア等に出演される場合は、「総合研究大学院大学」と表記いただきますよう、総研大の知名度向上にご協力をお願いいたします。

発行 2018年1月
編集



国立大学法人
総合研究大学院大学
SOKENDAI (THE GRADUATE UNIVERSITY FOR ADVANCED STUDIES)

神奈川県三浦郡葉山町(湘南国際村)
広報社会連携室
TEL 046-858-1590 / FAX 046-858-1632
Email [kouhou1\(at\)ml.soken.ac.jp](mailto:kouhou1(at)ml.soken.ac.jp)
※(at)は@に変換してください。